

講演会「現代ロシアの芸術と絵本
—国際アンデルセン賞作家イーゴリ・オレイニコフ氏を迎えて—
の開催について



講演会

現代ロシアの 芸術と絵本

国際アンデルセン賞作家
—イーゴリ・オレイニコフ氏を迎えて—
Игорь Юльевич Олейников

イーゴリ・オレイニコフ氏

沼野充義氏

日時 2019年
10月6日(日)
13時30分～16時

国立国会図書館国際子ども図書館は、ロシアの代表的な絵本画家であり、2018年国際アンデルセン賞画家賞を受賞したイーゴリ・オレイニコフ氏を招へいし、講演会を開催します。オレイニコフ氏の講演に先立ち、ロシア・東欧文学研究者の沼野充義氏に、現代ロシアの文化・芸術の視点から児童書についてご講演いただきます。講演の後、オレイニコフ氏の作品の魅力がさらに引き出されるよう、両氏による対談も予定しています。（オレイニコフ氏の講演及び対談はロシア語逐次通訳有）

【お問合せ先】 国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課 03-3827-2041(直通)

※報道に際して国立国会図書館国際子ども図書館の名称を表記する場合は、「国際子ども図書館」のように略さずに「国立国会図書館 国際子ども図書館」と表記していただくよう、お願い申し上げます。



【講演会開催概要】

講師	イーゴリ・オレイニコフ氏（絵本画家） 沼野充義氏（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
概要	講演「現実をおとぎ話にする—想像力の解放区としてのロシア児童文学」沼野充義氏 「おとぎ話を現実にする」イーゴリ・オレイニコフ氏 対談「ロシア絵本の世界—オレイニコフ氏の創作に迫る」オレイニコフ氏・沼野氏 質疑応答
日時	2019（令和元）年 10月6日（日） 13時30分～16時
会場	国立国会図書館国際子ども図書館 アーチ棟 1階研修室 1 （東京都台東区上野公園 12-49）
対象	中学生以上（定員 100名）
参加費	無料
申込方法	国際子ども図書館ホームページ上の申込フォームより申込み（先着順） https://www.kodomo.go.jp/event/event/event2019-12.html

【講師紹介】

イーゴリ・オレイニコフ（Игорь Юльевич Олейников / Igor Yulievich Oleynikov）氏

1953年モスクワ近郊のリュベルツィ生まれ。アニメーションの制作を経て図書の挿絵を手がける。映画のように場面を切り取り、重厚なグワッシュを用いてユニークな登場人物の物語を描き、おとぎ話をはじめとする80以上の作品を発表。2012年にIBBYオナーリストに選出された。2018年国際アンデルセン賞画家賞受賞。

沼野充義（ぬまの みつよし）氏

1954年東京生まれ。東京大学卒、ハーバード大学スラヴ語学文学科に留学。東京大学大学院人文社会系研究科教授。専門は19世紀から20世紀のロシア及びポーランドの文学（詩・小説）であり、ロシア東欧文化全般に関心を持つ。近年は研究対象を特定の国や言語に限定せず、欧米や日本も視野に入れながら、現代文学の生成・流通過程を世界的なコンテキストの中で捉えるための多分野的・越境的なアプローチを探っている。主な著書に『亡命文学論—徹夜の塊』（作品社、2002年、サントリー学芸賞受賞）、『ユートピア文学論—徹夜の塊』（作品社、2004年、読売文学賞評伝・伝記賞受賞）、『チェーホフ 七分の絶望と三分の希望』（講談社、2016年）等。

国際アンデルセン賞 (Hans Christian Andersen Awards) とは？

国際児童図書評議会 (IBBY) により創設された子どもの本の国際的な賞です。2年に1度、児童書の分野で卓越した業績をあげた現存の作家及び画家に贈られ、その選考水準の高さから、「小さなノーベル賞」とも呼ばれています。

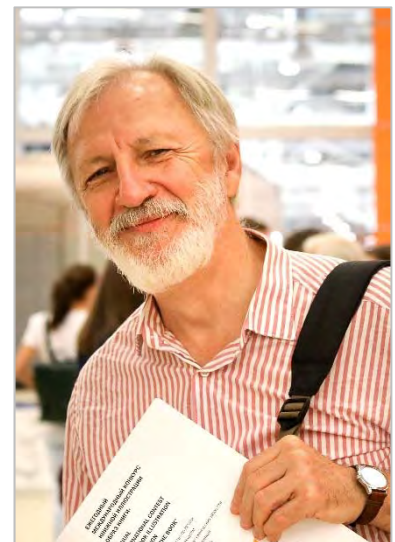
オレイニコフ氏が画家賞を受賞した2018年には、日本から『魔女の宅急便』などで知られる角野栄子氏が作家賞を受賞しています。

○国際アンデルセン賞 (日本国際児童図書評議会ホームページ)

<https://jbby.org/hans-christian-andersen-award>

イーゴリ・オレイニコフ氏とその作品について

イーゴリ・オレイニコフ氏は正規の美術教育を受けず、画家として活躍している人物です。美術学校を卒業せずに国際アンデルセン賞を受賞した画家は、2008年受賞者であるロベルト・インノチェンティ氏以来となります。自身の経歴についてオレイニコフ氏は、考えや描き方を強制されることなく絵に取り組むことができたという意味で、教育を受けていないことには良い点もあると語っています。その一方で、生まれ育ったソビエト連邦の公式芸術であった、社会主義リアリズム様式に影響を受けていることも認めています。

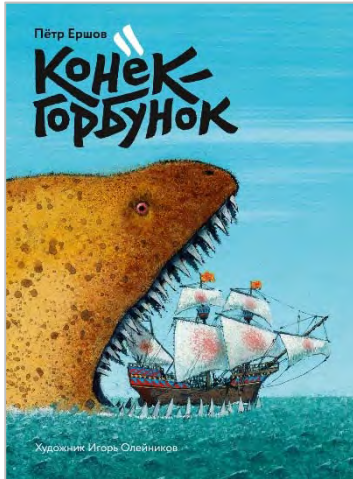


オレイニコフ氏はグリムやアンデルセンの童話、ゴーゴリやプーシキンといったロシア古典小説の挿絵を多く手掛けています。しかし、そこに登場するキャラクターの造形は従来の描かれ方とは異なり、美しさや可愛らしさを目指した挿絵とは大きく隔たっています。その独創性は、「文字通り」イラストを描くのではなく、テキストに自らの解釈を付け加える想像力こそがイラストレーターの重要な資質であるという、創作姿勢から生み出されたものです。また、そのようなイラストレーターの仕事を、スタジオでの制作経験に重ね、原作に基づくアニメーションの脚本制作にもたとえています。

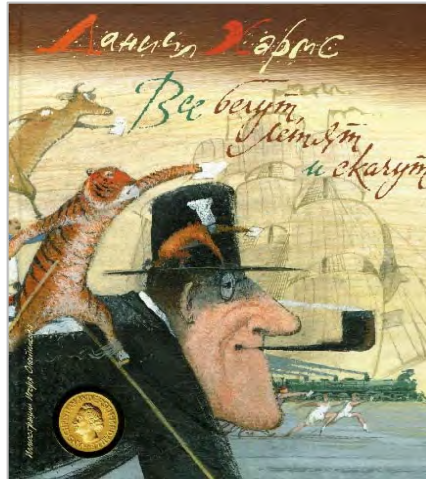
参考：IBBY「HCAA Nominees 2018 - Illustrator」

<http://www.ibby.org/subnavigation/archives/hans-christian-andersen-awards/2018/>

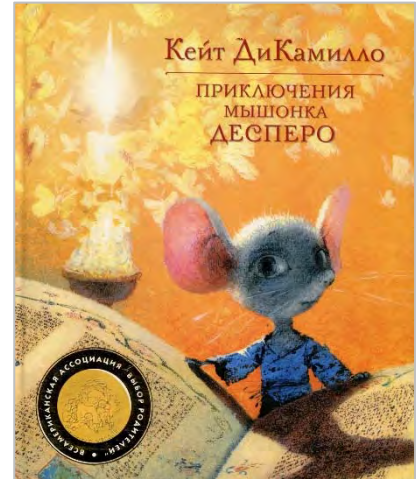
【参考：オレイニコフ氏の作品】 ※ 【 】内は当館所蔵資料の請求記号



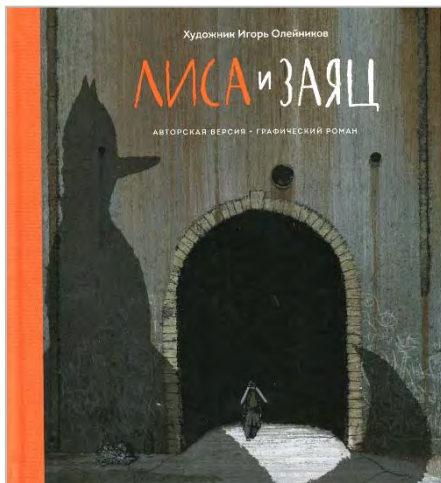
Конёк-горбунок,
Контакт-культура, 2016 【Y8-B18010】



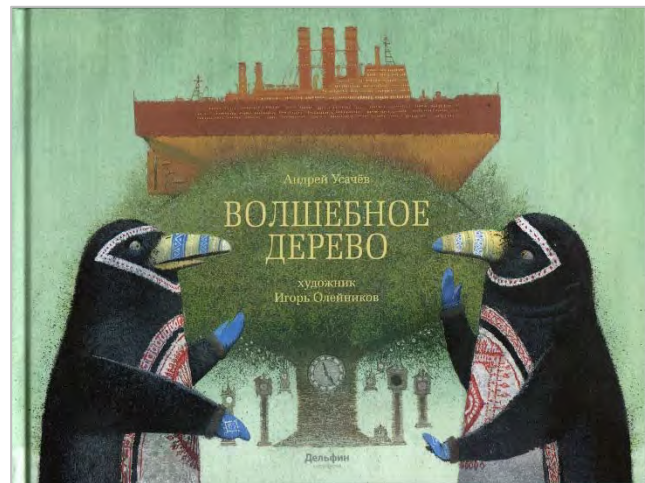
Все бегут, летят и скачут : стихи,
Махаон, 2011 【Y17-B13432】



Приключения мышонка Деспера,
Махаон, 2018 【Y8-B18017】



Лиса и заяц,
Манн, Иванов и Фербер, 2017 【Y17-B20882】



Волшебное дерево,
Дельфин издательство, 2016 【Y17-B20897】